

「明日の京都」ビジョン懇話会

（座長・中間とりまとめ）

平成 2 1 年 6 月

「明日の京都」ビジョン懇話会・座長中間とりまとめ

<前 文>

【序】

平成20年8月、京都府公館において第1回「明日の京都」ビジョン懇話会が開催され、京都府は、平成22年に計画期間満了を迎える現行の「新京都府総合計画（新府総）」、並びに新府総実現のための「中期ビジョン」に代わる、新たな「長期ビジョン、中期計画」等の検討をスタートさせた。

懇話会の席上、山田知事から、ポスト工業化社会を迎え、経済が成長から持続的安定へと変化し、少子高齢化が進行し、人口減少・長寿社会時代が始まるなど、わが国全体が今、非常に大きな転換期に差し掛かっている中で、「これからの京都府は、こういった価値観、文化観をもって進んでいくのか、多くの府民が共通のゴールとすることができる京都府社会のありたい姿とはどういうものか」という観点から、積極的なご意見をいただきたいという趣旨のご挨拶があった。

これを受け、ビジョン懇話会にご参集いただいた委員の皆様には、これまでに開催した6回の会合を通じて、それぞれの生活観や人生観などに照らしながら、京都府の将来像に関し多くの貴重なご意見をいただけてきたところであり、まずは座長として、この間の皆様のご努力とご協力に対し、心から感謝と御礼を申し上げる次第である。

【趣旨】

この「中間とりまとめ」は、これまでの懇話会でいただいた様々な意見と、各委員から提出された意見書をもとに、京都府社会の将来のありたい姿やそれらの根底に横たわる基本的な理念を、現時点における懇話会の意見集約として、座長の責任においてとりまとめたものであり、今後設置する「明日の京都」ビジョン懇話会・専門部会における具体的な道筋検討の参考となることを企図したものである。

【私の思い】

人類社会が、20世紀の成長の時代から21世紀の持続的安定の時代へと移行しつつある中で、世界の中でいち早く人口減少・長寿社会を迎えるわが国には、グローバル化した社会や深刻化する地球環境問題に対応しながら、来るべき新しい時代における人々の生き方や暮らし方、人と自然が織り成す良き社会や経済のあり方を、世界に示していく役割が期待されているといっても過言ではない。

私たちが暮らしている京都には、日本文化の中心地としての歴史と伝統が息づいており、時の流れのふるいにかかれ、脈々と受け継がれてきた価値ある本物が、現代社会の中に、更にその美しさを増しながら溶け込んでいる。そこには、人間も自然の一部であると考えられる日本人の比類なき自然観がしみ込んだ人々の暮らしがあり、一人ひとりの尊厳と人々の絆を大切に作るゆるぎない価値観に守られた地域社会がある。また、そこでは世界中から多くの人々が集い、交流し、新たな叡智が創造され続けている。しかしながら他方で、行き過ぎた利己的な価値観が地域社会において様々な問題を引き起こしていることも危惧されるところである。

私は、変化の先にある新しい社会のありたい姿を描くとき、この国の先人たちの価値観や生き方に、多くのことを学ぶことができると考えており、そのすべてがこの京都の地にあると信じている。

京都に学び、京都に働き、京都に育まれてきた私たちが、新しい京都府社会のビジョンを府民の皆さんとともに思い描き、明日の京都府を創造する一助となれば幸いである。

＜本 文＞

【重要な時代の認識】

今、世界では、温室効果ガスによる地球温暖化が進み、食料・エネルギー等の供給不安の高まりや、極端な貧富の差が顕在化する中で、経済優先の行き過ぎた価値観に警鐘が鳴らされている。

経済社会は、輪郭の見えないポスト工業化社会への転換期にあり、製造業の地位の変化が進む一方、情報や知識、知恵を資本とする経済社会への変化が加速しつつある。

IT化の進展を背景に情報や市場のグローバル化が進行し、人々の暮らしに多大な恩恵をもたらす反面、海外で発生した経済危機の影響が、突如として遠く離れた個人の生活に影響を落とすボーダレスな世界が出現しつつある。

国内に目を転じると、少子高齢化・核家族化の進行、本格的な人口減少時代の到来、経済・雇用情勢の不安定化、地域や個人の様々な格差の顕在化など、これまで経験したことのない厳しい時代を迎える中で、政治や官僚への不信感や、暮らしの将来不安が増大し、家庭や地域における人々の繋がりが希薄化し、高齢者や若者の孤立化が進むとともに、人々の利己的な精神が広がり、信頼や絆といった社会を支える大切な基盤が失われつつあり、様々な社会的問題を引き起こす事態となっている。

しかし他方で、長寿社会は、新たに社会活動に積極的に参加するアクティブシニアを増やし、またグローバルな社会は、若者を中心にゲームやマンガなどの新しい日本文化の発信力を高めたり、「クールジャパン」と呼ばれるわが国固有のファッションや建築への世界的な注目などをもたらしており、これからのわが国の新しい発展の可能性を示唆している。

このような時代や社会にあって、人々の価値観や人生はますます多様化してきており、画一的で平均的なライフスタイルを対象としたこれまでの様々な社会システムが、人々の暮らしの中で十分に機能しなくなりつつある。

【ありたい社会像・理念】

このような時代認識のもとに、各委員から提示された京都府社会の将来のありたい姿や理念を私なりに集約すれば、概ね次のようなものになる。

＜世界の中で京都ならではの役割を果たす京都＞

私たちは、京都議定書締結の地・京都として、あるいは日本人の心のふるさとであり、日本人のアイデンティティを体現する日本の顔として、世界の中で京都にしかできない、京都ならではの役割を果たしていきたい。そこには、地球温暖化対策に率先して取り組むとともに、日本の伝統文化や生活文化を大切にし、自然を慈しみ環境と調和して暮らす京都人としての誇り高き社会がある。

＜良き京都の価値観のもとで、人間らしく、やさしきをもって暮らせる京都＞

私たちは、ものの豊かさ、利便性、効率性を追求してきたこれまでの生き方を問い直し、本物を見極め、古いものを大事にし、足るを知り、不便を楽しむなど、人間らしい、生活の質を高める生き方に転換していきたい。そこには、一人ひとりの尊厳を大切にし、人へのやさしさや思いやりのあふれる暮らしがあり、同時に一人ひとりの個性や価値観に応じた真に豊かでゆとりある生活が送れる社会がある。

＜家族の絆と家庭を大切にし、自由で開かれたコミュニティのある京都＞

私たちは、家族の絆と家庭の持つ機能を大切にし、再構築していくとともに、地域社会に安心安全をもたらし、長寿社会における第二の人生の生きがいややりがいの場ともなり得る、自由で、世界中の誰にも開かれた、新しいタイプのコミュニティを形成していきたい。そこには、明日の京都府をつくる子どもたちが大切にされ、多くの人に愛される地域、さらに地域間が相互に認め合い連帯した社会があり、そして誰もが人生の岐路で孤立し、困窮することのない、温かく交わりのある支え合いの社会がある。

＜生涯にわたり継続して学べ、府民のあらゆる働きに誇りをもてる京都＞

私たちは、情報、知識、知恵が資本となるポスト工業化社会にふさわしい人材を育成するとともに、長寿化した人生がより充実したものとなるよう、生涯にわたる継続学習・教育の環境と、あらゆる働きに価値と誇りをもてる職業観を醸成していきたい。そこには、京都府社会を構成するすべての人々が潜在的な力を存分に発揮でき、格差が固定化しない社会がある。

【ビジョン実現に向けての検討事項】

このような社会像の実現に向けて、今後、ビジョン懇話会に設置する5つの専門部会において、特に検討を深めていただきたい主な事項を次に列挙した。

文化・環境部会

(中心テーマ)

京都のもつ環境先進性、文化精神性を日本人の暮らしと心に取り戻すこと

(検討事項)

- ◇京都らしさを支える気候や環境を守るべく、「低炭素社会」を実現するための京都ならではの先進的な方策
- ◇四季折々の自然の変化を心や五感で体感し、人々の暮らしの中に季節感を取り戻すなど、自然や環境を大切にし、共生する風土づくり・人づくりのための方策
- ◇伝統文化、祭り、芸能、旬の食材、和装、日本建築など京都ならではの文化に誇りを持ち、守り育て、次の世代に伝承していくための方策
- ◇歴史遺産や文化、芸術・芸能、人文社会系の学術研究など、ポスト工業化社会で価値が高まる資源への投資を見直し、経済社会で有効活用する方策

産業・労働部会

(中心テーマ)

歴史と伝統あるものづくりを極めるとともに、一人ひとりの仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現すること

(検討事項)

- ◇京都が脈々と受け継いできた、ものづくりの知恵と技術を大切にし、人材の育成も含め新たな京都の発展につながる産業を創造していく方策
- ◇商店街、観光、NPOなどの地域に根ざした事業活動を活性化し、地域内で資金が循環する地産地買型の経済構造に転換していくための方策
- ◇農山村地域において、若者が定住し、あるいは都会から移住してくるような魅力とやりがいのある暮らしの場を創出していくための方策
- ◇労働格差の是正と一人ひとりのワークライフバランスの実現に向けて、人、企業、社会の意識・制度を三位一体で転換していくための方策

福祉・医療部会

(中心テーマ)

誰もがどこでも普通に安心して暮らす（ノーマライゼーション）ことのできる共助型の福祉・医療社会をつくること

(検討事項)

- ◇医療現場における様々なミスマッチの解消や最新のIT技術などを活用した医療・福祉の空白地域解消のための方策
- ◇地域社会の中で、地域総掛かりで、互いに支え合う共助型福祉システムをつくるための方策
- ◇高齢者が生きがいと誇りをもって活躍でき、誰もが不安なく子育てができる社会をつくるための方策
- ◇予防医学、緩和医療、食品医療、福祉器具開発など、福祉・医療分野の研究開発を推進し、府民の健康増進に結び付けていくための方策

教育・学習部会

(中心テーマ)

家庭・学校・地域による協働教育を推進し、人間力を培い、一人ひとりの将来目標の実現と明日の京都府づくりを担う人づくりを行うこと

(検討事項)

- ◇子どもの教育を学校任せにせず、生活習慣、社会規範・道徳教育、人権や心の教育を含め、学校・家庭・地域社会による三位一体の協働教育を推進するための方策
- ◇大学受験のための知識詰め込み教育を、生涯を通じた目的達成型の継続教育に改めることをめざし、企業の採用、大学入試、高校教育のあり方等を一体的に変革するための方策
- ◇子どもの学びへの情熱を引き出し、初等教育で落ちこぼれなく全員が確かな基礎学力を身に付け、グローバル社会の中で自己実現を可能にするための教育方策
- ◇多彩な大学が多く立地し、学生や外国からの留学生が多く、また勉学・交流・活動しているという特性を一層京都府づくりに活かす方策

安全・基盤部会

(中心テーマ)

地域において必要な定住条件を整備し、自由で安心な新時代のコミュニティを構築すること

(検討事項)

- ◇それぞれの地域の多様性を活かしつつ、若者がふるさとに定住し、都会から人々が移住してくるために不可欠な社会基盤等の定住条件の整備方策
- ◇民間型の資産運用管理手法（アセットマネジメント）の導入、人工的な社会資本の自然への復元、公共事業に対する地域社会の自主性を高める権限の付与（エンパワーメント）など、新しい形の公共事業の推進方策
- ◇地域社会の中で異世代、異文化が交流を深め、地域内の絆を一層強めることで地域力による暮らしの安心安全を強化するとともに、都会において失われつつある地縁共同体をNPOとともに補完する新しいコミュニティの形成方策

【おわりに】

私は、植物生理学者である。1本の樹は、種から細胞を増殖させ成長し、やがて成熟し結実し、次の世代にその生命を引き継いでいく。成長の過程で環境に「働き」かけ、環境から「学び」、生命の知恵を「育み」、未来へと「つないで」いく。それが命あるものすべての営みであり、自然の摂理である。そしてそこには、1本の樹だけでは生きていけないという永遠の真理がある。

人間も、決してひとりでは生きていけない。ひとりだけの知恵ではどんなに小さな問題も解決することは難しい。

次の時代を担う若い世代、次の世代に繋ぐ責任のある世代、京都府に関わる多くの府民が共感し、みんなで力を合わせて進んでいけるような、真に価値ある「明日の京都」ビジョンづくりをめざして、これからも委員の皆様の熱心な議論を心から期待してやまない。

平成21年6月

「明日の京都」ビジョン懇話会座長
京都府立大学学長 竹葉 剛